

知れば知るほど奥が深い

お米作りのきほんの **き**



～ レベルアップ編 中干との合わせ技

中間追肥を施用して強い稲体を作ろう～

5月上旬の定植では、すでに中干しを始めている圃場もあると思います。

中干しの効果⇒①多くなった茎数を調整する役割②圃場に残っている窒素を抜く
③根に酸素を与える

それと合わせて中間追肥を施用することにより、稲体を強くしたり、根張りを大きくすることが出来ます。基本的に、窒素を入れないでケイ酸加里や、PKミックスなどを施用するようにしましょう。中間追肥で窒素を入れると節間が伸びて倒伏してしまう可能性が大きくなります。

稲体を強くして環境に負けないおいしいお米を作りましょう。



中干しの効果

茎数が多いと余計な茎ができて養分を使うため、茎の平均が18～20本になったら中干しを。

Point

窒素が抜けて酸素の供給をするため、靴の跡に水が溜まっているぐらいの中干しがベスト!!!!

Point

! 注意

中干しが強いと根を切ってしまう、逆に弱ってしまう。特に、中干し後に水が抜けやすくなるので厳禁!!!!



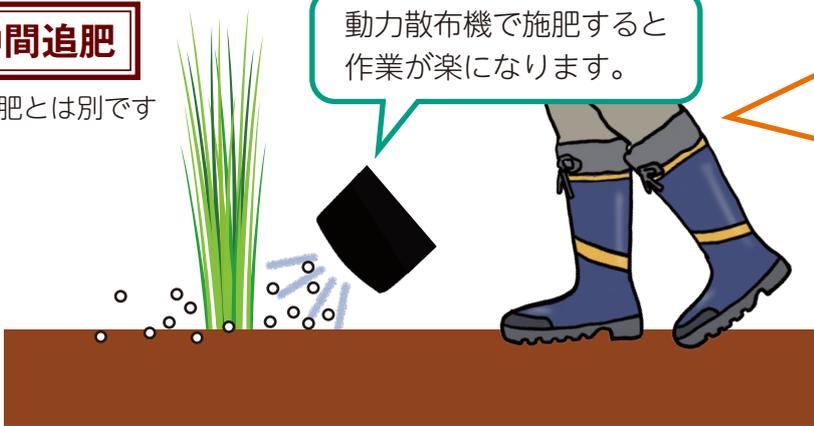
中間追肥

※穂肥とは別です

動力散布機で施肥すると作業が楽になります。

田植30日～40日で施肥!

中干しをするタイミングだと歩きやすくして施肥しやすいのでオススメ!! なるべく窒素は入れないようにしてください。しかし、分げつが弱い時などは、状況に合わせて窒素が入っている肥料を使ってください。



名称	成分	特徴
くみあいけい酸加里 プレミア34	加里20% ケイ酸34% 苦土4% ホウ素0.1%	けい酸と加里の相乗効果により、稲体を健全にし、登熟を高め、収量や品質（食味、粒張り、乳白軽減など）の向上に役立ちます。
PK ミックス	リン酸10% 加里10% 苦土7%	加里は炭水化物(デンプン)養分の転流を助け子実発育を促進します。 苦土は葉緑素の働きを高め、光合成を旺盛にしたり、リン酸の吸収を助けるため作物の品質や、食味の向上が期待される。